

(別添) 徳島県景気動向指数利用の手引き

(1) 景気動向指数とは

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に資するために作成されている指標です。

本県では、徳島県景気動向指数として「とくしまC I」を作成しています。

(2) 「とくしまC I」について

ア 概要

C I (Composite Index) は、採用系列の前月からの変化量を合成し作成した指数で、主に景気変動の相対的な大きさやテンポといった「量的な動き」を把握することを目的としています。

C I は、景気の動きに先行して動く傾向のある「先行指数 (Leading Index)」、ほぼ一致して動く傾向のある「一致指数 (Coincident Index)」、遅れて動く傾向のある「遅行指数 (Lagging Index)」の3つの指数で構成されています。景気の現状把握に一致指数を利用し、先行指数は、一般的に、一致指数に数ヶ月先行することから景気の動きを予測する目的で利用します。遅行指数は、一般的に、一致指数に数ヶ月から半年程度遅行することから、事後的な確認に用います。

一般的に、一致指数が上昇している時は景気の拡張局面、低下している時は後退局面であり、一致指数の動きと景気の転換点は概ね一致します。一致指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退のテンポを読み取ります。

なお、例えば景気の拡張局面においても指数が単月で低下するなど、C I には不規則な動きも含まれています。このため、ある程度の期間の月々の動きをならしめることが望ましいため、足元の基調の変化をつかみやすい3ヶ月後方移動平均と、足元の基調の変化が定着しつつあることを確認する7ヶ月後方移動平均をあわせて掲載しています。

イ 作成方法

次の手順により作成しています。

I) 各採用系列の前月と比べた変量 (対称変化率) を求める

$$\text{対称変化率} = \frac{\text{当月値} - \text{前月値}}{(\text{当月値} + \text{前月値}) / 2} \times 100$$

(注1) 負の値をとる系列(前年同月比など)や比率で表す系列(有効求人倍率など)は、対称変化率の代わりに前月差を用いる。

(注2) 逆サイクル(指標の上昇、下降が景気の動きと反対になること)の系列については符号を逆転させる。

II) 各採用系列の変化の量感(過去の平均的な動きと比較した変化の大きさ)を求める

i) 振れ幅の目安を求める

各採用系列の変化率を大きい順に並べ替え、四分位範囲を求める。

$$\text{四分位範囲} = \text{上位25\%値} - \text{下位25\%値}$$

ii) 外れ値を刈り込む

各採用系列の上昇(下降)幅が「閾値×四分位範囲」以上の場合は外れ値とし、上昇(下降)幅を「閾値×四分位範囲」で置き換える。

(注3) 閾値は、2010年1月分から直近12月分までのデータのうち5%が外れ値となるように設定している。

iii) 変化率のトレンドを求める

$$\text{変化率のトレンド} = \frac{\text{刈り込み後の前月からの変化率について当月を含む過去60ヶ月間を平均したもの(60ヶ月後方移動平均)}}{}$$

iv) 基準化する

各採用系列の変化率を基準化変化率の形に揃える。

$$\text{基準化変化率} = \frac{\text{刈り込み後の前月からの変化率} - \text{変化率のトレンド}}{\text{四分位範囲}}$$

III) 各採用系列の量感を合成する

$$\text{合成変化率} = \text{合成トレンド} + \text{合成四分位範囲} \times \text{合成基準化変化率}$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{合成トレンド: 変化率のトレンドの採用系列の平均} \\ \text{合成四分位範囲: 四分位範囲の採用系列の平均} \\ \text{合成基準化変化率: 基準化変化率の採用系列の平均} \end{array} \right.$$

(注4) 先行指数と遅行指数の合成トレンドは、一致指数の採用系列によって計算された合成トレンドを用いている。

IV) 前月のCIの値に累積する

$$\text{当月のCI} = \text{前月のCI} \times \frac{(200 + \text{合成変化率})}{(200 - \text{合成変化率})}$$